

# オクラ特別栽培における 2本仕立て2条植え栽培による収量安定化

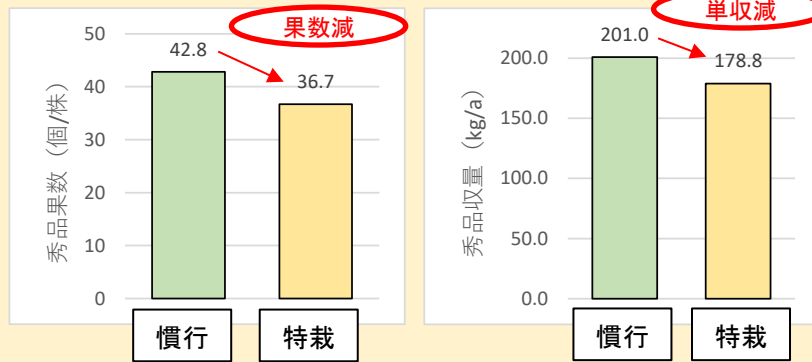
## 概要

- オクラの特別栽培では、慣行栽培と比べて1株あたりの収穫果数が減ってしまう。
- 2本仕立て2条植え栽培**を行うと、特別栽培でも収穫果数減少の影響を抑えつつ、高い面積あたり秀品収量が得られる。

## 目的

○オクラ特別栽培では慣行栽培と比べて1株あたり収穫果数が少なく、面積あたり収量が減少する傾向。

○栽植密度を高めて面積あたり株数を増やせば、**特別栽培でも高い収量性を期待**できるのでは？



【参考：2023年度試験】

- ・ いずれも1本仕立て1条植え (267株/a)
- ・ 収穫果のうち出荷規格に適さない曲がり果、り果、イボ果、虫害果を除いたものを秀品とした。



## 施肥体系

施肥体系 (2024年度試験)

施肥体系		元肥		追肥								成分量 (kg) (N:P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> :K <sub>2</sub> O)	有機窒素 量(kg)
		6/10		7/11	7/22	7/25	8/2	8/16	8/21	8/27	9/13		
特裁	セルカ2号	100kg	発酵鶏糞	●	●	●	●	●	●	●		20.0 : 33.1 : 23.0	17.7
	エコレット048	40kg	65.3kg×7回										
			バイオ有機 44.5kg								●		
慣行	セルカ2号	100kg	ダブルウイック	●		●		●		●	●	20.0 : 10.0 : 14.0	1.3
	いなば有機	50kg	20kg×5回										

## 施肥管理のポイント

○夏場はオクラの草勢維持が重要。草勢が強すぎても弱すぎても障害果(イボ果・曲がり果)が増加する。

⇒☆鶏糞を使う場合は追肥間隔を狭めて**窒素を切らさない**

☆初期の追肥は株元に、中盤以降はマルチ下の畝肩に施用する

○草勢判断の目安は以下のとおり。

	着花節位	葉色	葉の切れ込み
草勢が強い	最上位葉から2節以上	濃い	浅い
草勢が弱い	最上位葉から6節以下	薄い	深い



## 栽植方法

栽植方法	栽植密度	畝の寸法 (cm)				
		畝幅	畝間	条間	株間	畝高
1条植え	533本/a	90cm	150cm	—	25cm	20cm
2条植え	762本/a	130cm	210cm	45cm	25cm	20cm

2条植えは千鳥植えにして株間を確保



## 育苗・移植のポイント

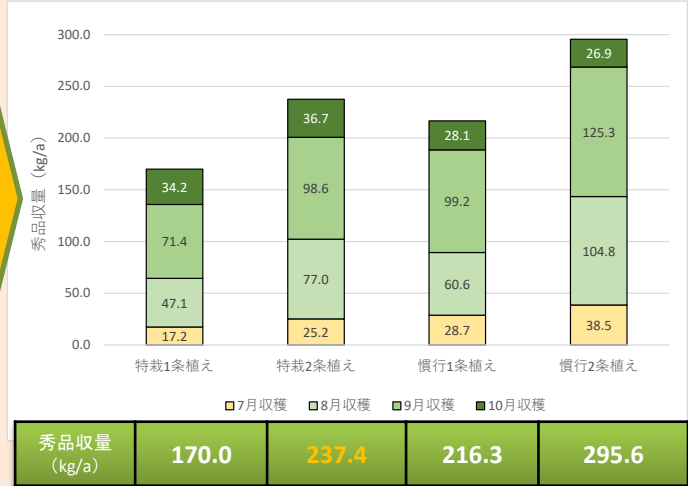
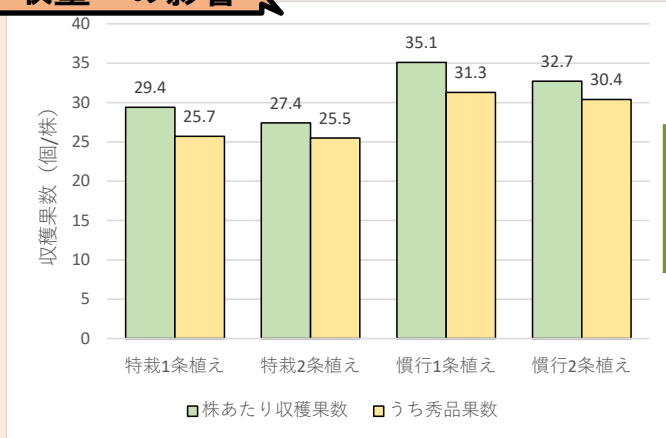
### 《育苗時》

- ① オクラの種子はφ9cmポリポットに4粒播種  
(コーティングされている市販種子は事前浸漬しない)
- ② 子葉が出てきたら生育がよい2本を残して間引き  
(2本仕立て)

### 《移植時・栽培中》

○畝にはシルバーポリマルチを被覆する(雑草対策・地温UP)

## 収量への影響



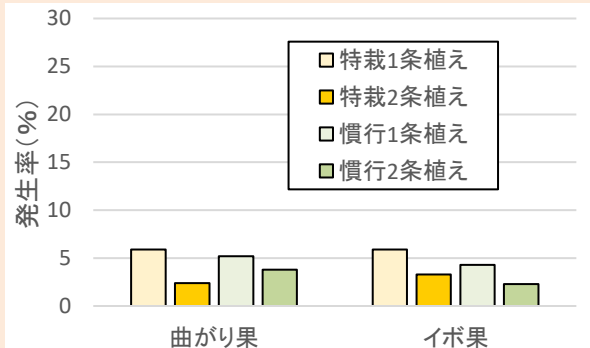
### ○特別栽培は慣行栽培より収穫果数減少

2本仕立て2条  
植え栽培で...

### ○面積あたり株数が増加

⇒特裁でも200kg/a以上の高単収を達成！

### ○障害果発生には悪影響なし



### 【利用上の留意点】

- 本情報は農業試験場内ほ場で露地栽培を行った結果である。実施期間のうち、2024年の結果を示す。
- 7月上旬以降はアワノメイガやオオタバコガ等の食害に注意する。
- 極端な過繁茂や草勢低下は障害果発生の原因になるため、着花節位や葉の形状を基に草勢を判断して、草勢に応じて追肥量および時期を調整することが望ましい。

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場水田高度利用研究室 電話0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい